



日本史 B 問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は、10 ページある。
2. これは、日本史Bの問題である。解答用紙が出願の時に選択した科目のものであるかどうかを確認のうえ、解答すること。
3. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
4. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験票と照合して受験番号が正しいかどうか確認すること。
5. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆又はシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入しなさい。
7. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 文字は一点一画まで正確に書くこと。
10. 解答用紙は持ちかえらないこと。
11. この問題用紙は必ず持ちかえること。
12. この試験時間は60分である。
13. マークの記入例

良い例	悪い例
	



[I] 以下の文章は、奈良時代の政治・社会について記したものである。文章内における a～e の [] に入る最も適切な語句を①～⑤の中から選び、マークしなさい。また、 ～ の中に入る最も適切な語句を漢字で記しなさい。

日本の律令国家の形成は、681年に天武天皇が日本の最初の法典といわれる近江令の改定を命じ、689年に持統天皇がこれを飛鳥浄御原令として施行させたころに始まった。それ以後も律令編纂事業は続けられた。a [① 舍人 ② 刑部 ③ 早良 ④ 山部 ⑤ 宗尊] 親王を総裁とし、鎌足の子藤原不比等らによって701年、大宝律令が完成し、律令体制が整えられた。その後、b [① 元明 ② 光仁 ③ 元正 ④ 聖武 ⑤ 孝徳] 天皇在位の718年、養老律令が編纂されたが、大宝律令と比べて大きな変更はなかった。この養老律令が施行されたのは、藤原仲麻呂が政権を担当していた757年である。このように、律令体制は、法制面では整えられた。また、律令国家を象徴する都として平城京が造営された。平城京は、基盤の目状に東西南北に走る道路によって整然と街区が区画された、条坊制をもつ都市であった。都は中央を南北に走る朱雀大路で東の左京と西の右京に分けられ、北部中央には平城宮が位置した。

このように制度上の整備が進む一方で、実際には、律令体制の崩壊の兆しが表れ始めていた。人口増加に対する口分田の不足もあって、政府は722年、百万町歩の開墾計画を立て、翌年には、律令体制の根幹である公地公民制の原則が破られ、期限を限って土地の保有を認める が制定された。しかし、このような律令体制の危機に対処できる強力な政権は存在しなかった。この頃、天武・持統朝から奈良時代前半にかけて存在した、天皇と皇族を中心とした政治形態である の体制が崩れて、藤原氏の台頭に伴う権力争いが激しくなり、朝廷もそれを統制する力を失っていた。このような政治や社会の混乱の中で、徒に遷都が繰り返され、ときの聖武天皇は仏教の力による平穏を期待するばかりであった。この遷都のうち、京都府相楽郡に置かれたものをc [① 紫香楽京 ② 難波京 ③ 甲賀京 ④ 福原京 ⑤ 恭仁京] という。

藤原氏は、鎌足以来皇族を中心とする [2] に協力してきたが、不比等は皇室との結びつきを強め、その四子も対立していた長屋王を追い落とし、臣下として初めて妹の光明子を天皇の皇后とすることに成功した。しかし、天然痘の流行で四子が相次いで病死すると勢力は一時衰え、政権は皇族出身の [3] (684~757)や唐に留学経験のある玄昉、吉備真備らの主導するところとなった。玄昉と吉備真備は、 [3] に重用されて活躍したが、-d【① 藤原百川 ② 藤原武智麻呂 ③ 藤原緒嗣 ④ 藤原冬嗣 ⑤ 藤原広嗣】は、彼らを除くことを名目に、740年、乱を起したが、敗死した。やがて、藤原仲麻呂が政権の座についた。彼は、 [4] 天皇(733~765)から恵美押勝の名を賜り、権力を独占するようになり、太政大臣にまでのぼった。ところが、後ろ盾であった光明皇太后が死去すると孤立を深め、孝謙太上天皇の寵愛を受けた道鏡が台頭すると、道鏡を取り除こうとして乱を起し敗死した。このころ、僧侶のなかには、道鏡のように政治的野心をたくましくする者も現れた。のちに [4] 天皇は、廃され、淡路に流された。孝謙太上天皇は、再び即位して称徳天皇となり、そのもとで道鏡による仏教政治が展開された。

道鏡は、称徳天皇のもとで、765年、太政大臣禪師に任じられ、さらに翌年は法王の地位に就いた。769年には、道鏡が、皇位を求める事件が起ったが、この動きは、和氣清麻呂の行動で挫折した。 [5] が道鏡の即位を促すお告げを下したが、その神意を聞く使いとなった和氣清麻呂は、最初のお告げとは反対の報告をして道鏡の皇位をうかがう意図をくじいたのであった。清麻呂の行動の背景には、道鏡に反対する貴族たちが存在したとみられる。道鏡は、770年に称徳天皇が死去すると、ただちにe【① 元興寺 ② 会津慧日寺 ③ 西大寺 ④ 下野薬師寺 ⑤ 筑紫観世音寺】に追放され、そこで死去した。その後、道鏡時代の仏教政治で混乱した律令政治と国家財政の再建が追求されることになった。

〔Ⅱ〕 以下の文章は、日本国内の世界遺産(世界文化遺産)についての説明である。文章内におけるA～Eの【 】に入る最も適当な語句を①～⑤から選び、マークしなさい。また ～ の空欄に入る最も適当な語句を漢字で解答欄に記入しなさい。

(A) 1993年、姫路城とともに我が国で最初の世界遺産に登録されたのが奈良県の「法隆寺地域の仏教建築物」である。法隆寺は、607年に大和の斑鳩に聖徳太子(厩戸皇子)が創建した寺院である。創建当時の伽藍は670年に焼失したが、現在の伽藍はそれからほどなくして再建されたものと考えられている。創建当時のものではないとしても、7世紀の木造建築の現存例は世界でも珍しく、金堂・五重塔・中門・回廊は飛鳥時代の様式を伝え、我が国における仏教の普及を考えるうえでも貴重な建築である。また建築以外でも仏像では、聖徳太子の死後、623年に鞍作鳥が制作したとされる北魏様式の金堂A【① 薬師如来像 ② 釈迦三尊像 ③ 四天王像 ④ 救世観音像 ⑤ 百済観音像】などがある。このほか法隆寺に隣接する尼寺である には、国宝の半跏思惟像や天寿国繡帳が所蔵されている。

(B) 2004年には奈良県・和歌山県・三重県にまたがる「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されている。ここには熊野三山とよばれる熊野本宮大社(本宮)・速玉大社(新宮)・那智大社(那智)の三社があり、院政期以降、「蟻の熊野詣」(大人数がぞろぞろと行列をつくることの形容)とよばれるほど、この三社への参詣が大流行した。とくに院政期の上皇・法皇たちは、いずれも頻繁に参詣している。今様を好み、みづから歌謡集『梁塵秘抄』の撰者ともなった 上皇(1127～92)は生涯に34度もここに参詣している。なお、この熊野三社で木版刷りされた牛玉宝印とよばれる護符(おまもりの札紙)は、中世後期の社会で契約内容の遵守を神仏へ誓うB【① 為替 ② 大田文 ③ 政所下文 ④ 起請文 ⑤ 勘合符】とよばれる文書の用紙として広く使用された。

(C) 2007年に世界遺産に登録されたのが島根県の「遺跡とその文化的景観」である。では、16世紀に朝鮮から伝来したとよばれる精錬技術を導入したことで、それまでより銀の産出量が飛躍的に増大した。そのため、その銀の利権をめぐる戦国大名の大内氏・毛利氏・C【① 尼子氏 ② 六角氏 ③ 宇喜多氏 ④ 大友氏 ⑤ 竜造寺氏】などが激しく争うことになる。その後、江戸幕府の直轄地になり、17世紀初頭、大久保長安が奉行になった頃が最盛期だった。

(D) 2011年3月11日、東北地方から関東地方の太平洋岸をM9.0の巨大な地震と津波が襲い、多くの尊い人命が失われた(東日本大震災)。この地震は、869年に同じく東北地方の太平洋岸で起きたD【① 延暦 ② 弘仁 ③ 承和 ④ 貞観 ⑤ 元慶】地震とよばれる大地震と同規模であったと考えられており、『日本三代実録』には、そのときの様子が「城郭・倉庫・門・櫓・塀などが数知れず倒壊した。海は雷のような轟音を立てて湧き上がり城下に押し寄せ、みな海底になった」(意訳)と書かれている。この文中の「城」はE【① 胆沢城 ② 志波城 ③ 桃生城 ④ 伊治城 ⑤ 多賀城】をさすと考えられているが、だとすれば、このときの津波の規模も今回の東日本大震災とほぼ同規模のものであったことになる。

今回の未曾有の災害に襲われた東北の人々にとって、久しぶりに明るい話題となったのが同年6月の岩手県「平泉」の世界遺産登録であった。登録対象となった構成資産のなかには、藤原清衡の建立である中尊寺、藤原基衡の建立である, 藤原秀衡の建立である無量光院跡などがある。世界遺産については、それが安易な商業主義や利益誘導と結びつきやすい点や、西欧的な価値基準で選考がなされている点などの問題点も指摘されているが、このことが地域の人々がみずからの歴史を振り返る契機となり、少しでも復興への活力につながる如果能够ならば、これほど意義深いことはない。一日も早い震災からの復興を心から祈りたい。

〔Ⅲ〕 以下の文章は近世前後の貨幣史とその関連事項について記したものである。文章内における(a)～(e)の【 】に入る最も適切な語句を①～⑤から選び、マークし、また ～ の空欄に入る最も適切な語句を解答欄に漢字で記入しなさい。

中世までの貨幣は中国からの輸入銭(宋銭・明銭)や粗悪な私鑄銭などが使用されており、そのために円滑な流通が阻害され、それぞれの交換比率に不具合が生じていたことはよく知られている。それゆえ織豊政権は全国規模の経済政策の実施に向けて金銀の採掘、精錬、鑄造を標準化する努力を払わなくてはならなかった。秀吉は、佐渡相川、但馬生野などの主要鉱山を直轄化したうえで、貨幣鑄造を試みた。京都の彫金家、(a)【① 後藤徳乗 ② 小堀遠州 ③ 荒木田守武 ④ 本阿弥光悦 ⑤ 酒井田柿右衛門】(1550～1631)に命じて1588年に造らせたという天正大判などがそれである。ただし、この段階の貨幣は政権の交代もあり、全国市場を統一する貨幣としての地位を確立することはなく、実際に全国規模の貨幣制度が確立するのは織豊政権の基本的な貨幣政策を引き継いだ徳川氏の手によることとなる。

全国的に通用する同じ規格の金・銀の貨幣は、1601年に整備された金座・銀座で鑄造された。金座は江戸と京都におかれ、小判、1分金などを鑄造した。銀座は最初伏見、駿府におかれ、のち京都と江戸に移されて丁銀、豆板銀などを鑄造した。金貨は両、分、朱の単位でそれぞれが(b)【① 2 ② 3 ③ 4 ④ 8 ⑤ 12】進法で数えられる計数貨幣であったが、銀貨は目方を計る 貨幣であった。銭は江戸や各地の民間請負の銭座などで寛永通宝の1文銭・4文銭などを銅や鉄で鑄造した。しかしながら、慶長大判などは流通貨幣というよりは、公儀の賜与や大名の贈答のための性格が強かったという。また、以上の金・銀・銭の三貨の交換は変動相場制によっていたため、はなはだ複雑であった。また、国際的には銀本位が規準となっていたうえ、東日本経済が金決済、西日本経済は銀決済という仕組みが定着してしまい、国内金融市場はつねに変動する価値に翻弄されていた。

とくに元禄期の好況期にはその拡大された経済にみあった通貨の増発が必要となったため元禄の改鑄が行われたが、金銀の減産傾向と、銀の国外流出、両貨のアンバランスなどの要因から金銀貨は大幅に悪鑄されたものとなった。1695年、当時勘定吟味役であった (2) (1658～1713)の上申を受けて綱吉によって発行された元禄小判は、慶長小判が金含有率84%であったのに対して同比率がわずかに57%でしかなく、銀貨についても同様に銀含有率が80%から64%に減少している。このように貨幣価値が大きく下落すると庶民はインフレのさらなる激化に苦しむこととなった。また、両貨の改悪の度合いとしては金貨のほうが大きかったこともあり、元禄金をきらって銀貨に対する需要が高まり、銀貨が払底することで銀相場は高騰した。幕府は事態に対応するために金銀比価の改定を行い、さらに宝永期には定量を減じた乾字小判などを発行し、金銀比価および東西の相場安定を目指したが成功することはなかった。

これに対して正徳～享保期の貨幣改鑄は悪貨にかえて良貨をつくることを目的としていた。幕府は新井白石の建策にもとづいて1714年、正徳貨幣の改鑄を開始し、同時に銀座の肅清を断行した。家康時代への復古の理念は貨幣政策にもおよび、享保期にかけて発行された小判は慶長小判とほぼ同様の定量と品位を回復した。しかしながら旧貨の通用禁止令によって物価が新貨により表示されるようになると景気は急激に後退した。茅場町に私塾を開き、聖人の道を明らかにした『弁道』という著書で経世論を説いた (3) (1666～1728)などの学者もこの幣制改革による通貨縮小策が行き過ぎであって、貨幣の品位、定量を落としても貨幣数量を確保する必要があることを説き、幕府は再び悪貨の改鑄を通じた景気の安定策を繰り返していくこととなる。

他方、この時期は領国通貨(藩札)が一般化したことでも知られている。幕府は1730年には1707年以來の札遣い停止令を解除し、藩札の再発行を許すこととなった。藩札はその後、貨幣流通量の不足を補い、領国経済の商品流通の結節点となっていく。そもそも藩札は1661年に(c)[①福井 ②郡山 ③広島 ④尼崎 ⑤久留米]藩で最初に発行されたといわれている。江戸初期から経済の中心として栄えていった畿内、伊勢の有力商人の私札の流通に対応するため、藩が紙幣を発行したと解釈されている。

田沼時代には、商工業者の組織化政策、あるいは専売制の実施など、各地で発展しつつあった商品生産・流通からもたらされる富を財政の補強のために使おうとする経済政策が展開した。貨幣政策でもそれまでの三貨を金に一本化して貨幣制度の安定をはかるために計数銀貨の発行を実施した。これは田沼意次が老中に就任する直前に発行された明和(d)[① 五分 ② 五貫 ③ 五両 ④ 五匁 ⑤ 五朱]銀の政策意図を踏襲したもので、金銀の相場により変動する貨幣制度を強制的に安定させる目的をもっていた。ただ、この貨幣は鑄造数が少なかったうえ、取り扱いもかさばって使いにくかったため、1772年、97%の純度を持つ (4) 銀を発行した。この銀貨(e)[① 2 ② 3 ③ 4 ④ 8 ⑤ 12]枚で金1両に相当する計算になった。幕府は同貨幣の流通を公金貸付制度と一緒に実施することで成功に導き、天明期には流通の安定基盤が確保されたといわれている。

しかしながら江戸後期にかけては、幕府の財政はさらなる逼迫状況に陥り、文政、天保期には貨幣の悪鑄に財政危機の打開という目的がこめられていくが、不安定な金融状況は続き、開国によってその状況はさらに悪化の一途をたどった。金の銀に対する相対価値の低さから、外国人が銀貨を日本に持ち込んで日本の金貨を安く外国に持ち帰る事態が進展したのである。これは、おもにスペイン系中南米諸国で鑄造されていたメキシコ銀などのいわゆる (5) 銀を日本の天保1分銀と交換し、そしてさらにそれを日本の金貨と交換する手法によった。幕府は金貨の品位を大幅に引き下げた万延小判を鑄造してこの事態を回避しようとしたが、これにより物価高騰がおり、下級武士や庶民の生活は著しく圧迫され、討幕のうねりの一つの底流となったといわれている。

[IV] 以下の文章は、バブル経済について記したものである。文章内における(A)～(E)の【 】に入る最も適当な語句を①～⑤から選び、マークしなさい。また

～ の空欄に入る最も適当な語句を解答欄に記入しなさい。

日本経済は二度のオイル・ショックを切り抜けた後、1980年代前半には自動車や電機を中心として米国などへ集中豪雨的な輸出をおこなった。このことが米国とのあいだに大きな貿易摩擦をもたらした。 と呼ばれる貿易赤字と財政赤字に苦しむ米国は上院で対日批判の決議をおこなった。1985年、ニューヨークのホテルで開催された先進(A)【① 5 ② 6 ③ 7 ④ 8 ⑤ 9】カ国財務相・中央銀行総裁会議で、日本はドル高修正のため為替市場への協調介入を強化することに合意した。この合意をそのホテルの名前を冠して(B)【① ヒルトン ② メトロ ③ ハドソン ④ プラザ ⑤ エンパイア】合意と称している。この合意によって円はその後1ドル240円台から、日銀が危険ラインとしていた180円を突破した。この急激な円高によって輸出業界は打撃を受け不況が引き起こされることになった。そのため日本政府は未曾有の金融緩和と財政出動によって内需を拡大することで円高不況を克服しようとした。日本銀行は1986年1月、公定歩合を5.0から4.5パーセントに引き下げたのにつづき、87年2月の2.5パーセントまで矢継ぎ早に引き下げた。この未曾有の金融緩和に加え、大蔵省による財政出動もなされた結果、地価と株価が高騰する事態に立ち至ることとなった。金融緩和や財政出動に加えて、当時企業が銀行から資金を融資されるよりも直接金融市場から資金を調達するようになっていたため、銀行の資金はあらたに貸し出し先を探さなければならなくなり、資金は土地と株に流れたのであった。

このようにして日本経済の資産価値が急激に膨張することとなった。地価と株価が異常に高騰したバブル経済の発生であった。1987年には実質経済成長率が4.8パーセント(前年3.1パーセント)となったため、円高不況は乗り切れたとされた。この年、安田火災がゴッホの(C)【① 草上の昼食 ② 聖家族 ③ ひまわり ④ 晩鐘 ⑤ 睡蓮】を54億円で購入したり、小金井カントリー倶楽部のゴルフ会員権が3億3000万円で取引されたり、NTTの株が一株119万円で上場されるなど世間はバブル経済に浮かれた。地価高騰は商業地から住宅地へ移っていった。

土地を買いあさる地上げ屋も登場した。

1980年代の後半、日本はバブル経済によってわが世の春を謳歌していた。88年にはセゾングループがインターコンチネンタル・ホテルを21億ドルで買収し、89年にはソニーがコロンビア映画を、三菱地所がロックフェラーセンタービルを買収した。国内では家計が得た土地と株式のキャピタルゲインは260兆円に達し、実質経済成長率は6パーセントに、土地価格は2ケタ上昇した。89年末に日経平均株価は3万8915円の最高値を記録した。この年はバブル経済のピークであった。ビバリーヒルズならぬ「チバリーヒルズ」が千葉県に登場した。この間日米間の経済摩擦は解消されず、米国は日本の障壁撤廃を求めて1989年秋から日米 協議が開始された。

このようなバブル経済にたいして、89年5月、日本銀行はそれまで2年3ヵ月にわたって2.5パーセントにしていた公定歩合を3.25パーセントへ引き上げた。1990年に入って、なおバブル経済の余熱は残り、実質経済成長率は5.5パーセントを維持していたが、ようやく株価の下落がはじまった。同年2月26日には株が暴落し、日経平均株価は3万3300円とブラックマンデー以来の1500円安となった。同年3月には、政府の不動産向け融資の総量規制もはじまった。1991年、日本経済は実質経済成長率が2.9%へ低下し、さらに翌92年には0.2%へと落ち込むとともに、株価も急落した。92年8月の日経平均株価は6年5ヵ月ぶりの1万5000円割れとなった。

この時期、銀行が抱えていた回収困難な債権のことを とよんだが、これが銀行の経営を圧迫し、1993年にいたって 問題として表面化した。日銀の推計によると銀行だけでその額は50兆円で、GNPの10.7%とされた。1994年に東京協和信用組合、安全信用組合が行き詰まり金融不安がはじまった。1995年にはコスモ信用組合、木津信用組合、兵庫銀行が破綻した。おもに住宅向け金融を手掛ける日本住宅金融、住宅ローンサービスなど住専大手7社の損失総額は6兆4000億円に達した。1996年9月にはこの問題処理のために資金を投入する住専処理法案が成立した。1997年の「経済白書」は96年の成長率が4.4パーセントと前年の3.0パーセントから改善したこともあって「バブルの後遺症の清算から自立回復へ」をうたった。

しかし、1997年、第2次 内閣の時に消費税が(D)【① 1パーセント ② 2パーセント ③ 3パーセント ④ 4パーセント ⑤ 5パーセント】から引き上げられたことや、アジアの経済危機の勃発もあって景気はふたたび深刻な後退局面に入った。この時から日本経済は「金融メルトダウン」に突入したとされている。同年11月には三洋証券の会社更生法適用の申請、北海道拓殖銀行の破綻、山一証券の自主廃業決定などが起こり、預金の引き出し騒ぎが起きた。翌98年、大蔵省はバブル経済の崩壊によって発生した回収が困難な債権は76兆7000億円と発表した。政府は同年、金融機関を救済するために成立した金融再生法にもとづいて大手21行に約1兆8000億円の公的資金を投入した。

しかし同年10月には(E)【① 日本興業銀行 ② 第一勧業銀行 ③ 国際協力銀行 ④ 日本長期信用銀行 ⑤ 日本政策投資銀行】が破綻し、戦後はじめて民間銀行が国有化される事態となった。つづいて12月には も一時国有化され特別公的管理下に入った。1999年に入っても事態の改善はみられず、2月、日銀は大手21行にさらに7兆5000億円の公的資金を注入した。2000年7月、「そごう」が民事再生法の適用を申請した。このように1991年からつづく不況を複合不況、平成不況などといい、多くの企業でリストラが行われた。

